

視察報告書 町田市議会無所属会派 吉田つとむ 2024.2.8 提出

香川県内 3 か所視察 2024.1.31-2.1 実施 2月1日分の2

東かがわ市「五名活性化協議会」視察報告

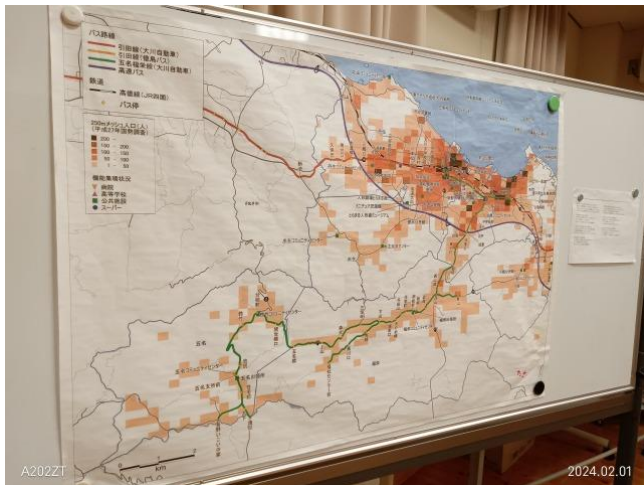
概要

「五名活性化協議会」というのは、香川県の東端にある東かがわ市の南西部、四国山脈の南側にある「五名」という集落を活性化する目的で誕生している団体です。平成13年の「旧ふるさとの家」（旧郵便局跡地を利用）、平成17年の「五名活性化対策委員会」に続き、平成25年にできた組織がこの「五名活性化協議会」（小北 逸郎会長）です。

当初、連合自治会、ふるさとの家、里山を守る会、山村クラブ、女性部で組織され、行政、観光協会、地域おこし協力隊、香川大学と連携して活動しています。現在はそれに、「よりそって五名」というグループが参加しています。

五名三大祭という新旧取り交ぜた祭りが開催されています

○山びこ文化祭 ○五名ふるさとまつり ○五名いのしし祭り



東かがわ市の西南部が五名地域で中山間地にある 活性化センター全景

この五名地区では、過疎化が進む一方で、新規居住者も増加しています。

「五名活性化協議会」にとっては、旧来の人と新規居住者をつなぎ合わせ、新たな人々を迎えるのが重要な役割となっています。当然、テレワーク従事者の移住も含まれますが、それらの拠点区とする方針はうかがえませんでした。



所感

この五名地区に移住者を呼び込みには、次のデメリットがあるとのことでした。

学校はない、JA もない地区になっています。ただし、別記事のように東かがわ市は、小中学校を統合し、同じ場所に小中学校を設置し、9年生の編成にした上で、徒歩、自転車、バスの通学を認めており、その不便性はかなり減っていると思われました。また、JA の不在は「五名活性化協議会」に参加する「ふるさとの家」のように、直販体制を構築することで、農家の生産物の販売先の代替え手段を持つことになっているのではないのでしょうか。



また、女性による「寄り添って五名」が、食事サービスである配食弁当を提供する事業を開始し、困り事を聞いてまわる活動を行っており、協同組合の方式が準用されているようです。もとより、行動力があって、時間も確保できる人材が中核になってのことでしょう。この日の研修では、昼食でお世話になりました。メニューには、いのししの肉（ジビエ料理）のハンバーグが入った弁当が用意されました。

地域柄からも、地産地消の食材が基本とされていました。



過疎化は進んでいますが、空き家のほうが少ないとのことでした。すでに新規移住者の住居に転換されているとのことでした。

ただし、他の地区は公共水道が入っているにも関わらず、この地域では自前の簡易水道をいまだに使用しており、他方で、五名の各戸は予備で井戸を持つとのことでした。



移住者は田舎が好きで来た人が大半であり、生活は半農半林業の形となり、森林組合から、下刈草の仕事を受注するのも一般的であるそうです。

校舎跡地を指定管理で受注しているのは、五名活性化協議会であり、協議会の委託金となっているそうです。

産業では、イノシシや鹿が多く、それらを捕獲したものを自前で食肉処理を施し、資格者を有してジビエの食肉用に解体場としているとのことでした。近年では、東かがわ市のふるさと納税の返礼品の品目にも指定され、好評を博しているとのことでした。

この地域は、これかも徐々に移住者を迎え入れる体制になっていく様相が感じるところでした。